ROKEN いばらき

第61号
2022.8.1

一般社団法人　茨城県介護老人保健施設協会

目次 Contents

- 会長あいさつ …… 2
- 理事あいさつ …… 2
- 茨城県福祉部 長寿福祉課　課長あいさつ …… 3
- **特別コラム　俳優 市毛 良枝さん**からすてきなコラムをいただきました …… 4
- 企画1　令和4年度 第1回 リハビリテーション専門委員会研修会を終えて …… 5
- **特集**　認知症のなかでもよりケアに注意を要する
  レビー小体型認知症について **医学博士 安部 秀三氏** …… 6
- 委員長就任あいさつ …… 8
- 企画2　第29回　研究発表会アンケート結果 …… 10
- 茨老健からのお知らせ …… 13
- 水戸事務局だより …… 15
- スタッフからの一言 [ライブリーライフ「那珂」・セントラルゆうあい] …… 16
- **テノール歌手 秋川 雅史さんからのメッセージ** …… 17
- みんなの広場 [ひだまり倶楽部・すばる・はぁもにか・プレミエール元気館] …… 18

会長あいさつ

「答えさがしの旅」

一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会
会　長　　大場　正二

日頃より当協会の運営に温かなご支援を賜りまして本当にありがとうございます。

施設で勤務されている職員の皆様、関係くださっている全ての方々に改めて、感謝申し上げます。

さて、前号では一年の抱負についてお話をさせてもらいました。年の初めに、抱負をお決めになる方も、また、お決めにならずに一日一日を一生になぞらえて味わい深く過ごすことを選ぶ方も、どちらも素晴らしいことではないのでしょうか。あれから半年、皆様もきっと価値のある日々をお過ごしになったかと思います。

今号では、少しだけ皆様と答えさがしの小さな旅に出掛けてみようと思っています。

わたしたちの周りではいつも変化が生まれています。一例では介護保険等の定期的な制度変更、社内の人事による新しい同僚や上司・部下との出会い、ご利用者との出会いや日々の業務での変化、さらには、自身の私生活での変化など、数え上げたらきりがありません。

また、変化と同じくらいに「悩み」もしばしば生まれてくるものです。もしも、このような悩みができたとき、皆様はどのように対処していますか。「悩み」もよくよく考えますと課題を受け身として捉えるような「苦慮」と、どのようにすれば課題を解決できるか、また、目的が達成出来るかを考えていく「苦心」(※額に程良い汗がかけるイメージでしょうか)に分けられるのかもしれません。

わたしもできうる限り「苦慮」を「苦心」に替えることを心がけているつもりです。ある方が「悩み」のことでお話をされていたことを記憶しています。どんなに暗闇に閉ざされることがあっても、静かに、ゆっくりと辺りを見渡せば、小さく灯る一点の光りを必ず見つけることができると。

はたまた、ノーベル文学賞を受賞した歌手のボブディラン氏が唄っています。

「友よ、答えは風に吹かれている―」これはきっと、時間の長さは別として、ご自身の手で答えは見つけられることを教えてくれているのではないでしょうか。

わたしたちも、日々、一人一人が自身の答えさがしをしながら生活をしているのかもしれません。その答えは、ひょっとしたら目の前にいる方や関わる方の一言や表情に隠れている場合もあるのでしょうか。もしかしたら、ご自身の心のひだにくっついていたり、鏡に映ったご自分のなんとも素敵な表情の中にあるのかもしれませんね。

貴重な誌面を使って勝手なことを書き連ねてしまいました。ただ、こうしているとお会いしたことがない皆様と少しでも気持ちが通じた気がしています。皆様に、ほんのほんの少しでもエールが届けられたなら幸いと存じます。ありがとうございました。

理事あいさつ

一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会 理事
介護老人保健施設ごぎょうの里施設長
宮田　信之

私は2021年10月より医療法人宮田医院運営の老人保健施設ごぎょうの里の施設長に就任して、前施設長宮田澄子医師に引き続き、茨城県介護老人保健施設協会の理事に加えさせていただきました。老人保健施設の施設長としての経験はほとんどないまま理事の大任を仰せつかり、非常に恐縮しています。前任の施設長が退任するにあたり推薦があったことと、大場会長のお誘いがあったことから、浅学菲才を顧みずお受けすることにしました。長年お世話になった恩返しのつもりでいますので、よろしくお願いします。

私はここ30年ほど、仕事の半分は在宅訪問診療に充ててきました。介護保険法の成立、基盤整備、そして2000年4月の介護保険開始とその後の変遷を、在宅の現場で訪問診療医として身をもって体験してきました。利用者本位を謳った介護保険は、出発時は21世紀にふさわしい希望に満ちたものでした。しかし改変の度に変質し、22年を経た今、少なくとも在宅の現場では大きく後退して、使い勝手の悪い制度になっています。軽度者の利用制限は進み、自己負担の増加はこれに追い打ちをかけています。

こういった中で、ぶれない存在として在宅を支えたのが介護老人保健施設だったと思います。訪問医療にかかわってきたものとして頼りがいのある「砦」と言っていいものです。「病院と在宅をつなぐリハビリ施設」という位置づけも変わらず進化し、現在に至っています。すぐれた長所を使わない手はありません。もれなくどのように在宅に還元していくか、私の課題と考えています。

老人保健施設の新米施設長として取り組まなければならないことは山積しています。医療と介護をどうつなぐか、若い介護員たちとうまく付き合わなければなりません。施設リハビリについてはその組み立てをこれから勉強していきます。協会の先生方にご指導いただくことばかりです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

茨城県福祉部長寿福祉課課長あいさつ

茨城県福祉部
長寿福祉課 課長
山田　俊光

今年の４月に長寿福祉課長に就任いたしました山田俊光でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

茨城県介護老人保健施設協会会員の皆様方には、日頃から高齢者保健福祉の向上並びに介護保険制度の円滑な運営に加えて、今般の新型コロナウイルス感染症対策に多大なご尽力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

特に、年明けからオミクロン株による感染拡大により、本県でも感染者数の最多を更新する状態が続く中、３回目のワクチン接種を進めていただき、ありがとうございました。

今後の感染拡大に備えて、協力医療機関等との連携など、医療支援の更なる体制構築に向けて引き続きご協力をお願いいたします。

我が国では、人口減少と少子高齢化が急速に進行し、本県におきましても、今年４月１日現在の高齢化率は30.5%という状況にあり、今後、国民の医療や介護のニーズがさらに増加することが見込まれています。

さらには、団塊の世代全てが75歳以上となる2025年には、本県の75歳以上の後期高齢者数は50万人を超えることも予想され、医療や介護に対する必要性がさらに増していくことが見込まれております。

このような中、介護老人保健施設には、医療と介護の双方の専門知識を持つという、他にはない強みを存分に生かされ、在宅に戻られた利用者が地域で継続して必要なケアが受けられる体制づくりにつきましても、積極的に取り組んでいただきますよう、お願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策については、各施設において、引き続き、ウイルスを「持ち込まない」、「拡げない」対策を徹底することに加え、感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築いただきますようにお願いいたします。

結びに、今後とも本県の高齢者保健福祉行政の推進にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会の益々のご発展をご祈念いたしまして、挨拶といたします。

特別コラム

俳優 市毛良枝さんから すてきなコラムをいただきました

市毛（いちげ） 良枝（よしえ） さん

プロフィール

俳優。映画・テレビ・舞台のほか執筆活動や講演など幅広く活躍中。登山が趣味でキリマンジャロ、ヒマラヤの山々にも登っている。その他の活動として、環境カウンセラーや日本トレッキング協会の理事も務める。近年の出演作に「越路吹雪物語」「未来への10カウント」「無用庵隠居修行」「駐在刑事」。著書に「山なんて嫌いだった」（山と渓谷社）など。９月より主演舞台「百日紅、午後四時」を岐阜・東京を始め各地で上演予定。

100歳で永眠した母とともに、足掛け13年、介護という闘いの時を過ごした。大変ではあったが、人が老いていく姿を間近で見、生きる意味などたくさんのことを考えさせてもらい、今は感謝しかない。

母はなかなか面白い人だった。わたしの幼少期に見せていた日本の母らしい顔は、時代を生きるための別の顔かと思うほど、父亡き後、いっきに弾けて花を咲かせた。隠していた本領を発揮したのだろう。趣味を見つけては没頭し、それぞれにそれなりの才能を開花させ、そこでできた友人と旅にも出かけ、80歳過ぎてダンスまで習った。

86歳で最初の大病をしてからも、何度となく危機に陥りながら、「我々の常識を越えました」と医師に言わせる復活を繰り返した。

…が、95歳を超えると、さすがに一日一日が大変になった。食べる、水を飲む、息をする、当たり前のすべてが、こんなにも大変なことだったとは…。それでも最後の最後まで楽しむことをあきらめなかった。そんな母に、何より気をつけたのは退屈させないこと。食べること以上に、退屈させたら生きられないと思ったからだが、執念実って99歳まで海外にも旅をした。

100歳の誕生日を無事に越えると、ほっとしたのか、少しずつ生への執着を脱ぎ捨てるように弱って行った。そして「せっかくだから100歳は見たいわね」と言っていた願いを叶え、ふっと神様のもとに旅立っていった。

日を重ねて寂しさは募るがあの笑顔は忘れない。小さな喜びを見つけて最後まで楽しんでいた姿は、母の人生に伴走した私たちへのご褒美だと素直に思える。

企画1

令和4年度第1回 リハビリテーション専門委員会研修会を終えて

立川記念病院 かさま障がい者サポートセンター
理学療法士　照山　祥大

1. 研修会概要

【研修会テーマ】 LIFEにおけるフィードバックと効果的な活用法、見守りセンサーデータの活用とLIFE
【開催日時】 令和4年6月17日（金）　19:00～20:30
【講　師】 石川　真大先生（NDソフトウェア株式会社）、小林　ゆ紀先生（リコージャパン株式会社）
【参加者】 104名（理学療法士：50名、作業療法士：29名、言語聴覚士：9名、その他（医師・看護師・介護福祉士等）：16名）

2. 研修会内容

まず初めに、今回「老健いばらき」に研修会レポートを掲載する機会を頂きありがとうございました。茨城県介護老人保健施設協会リハビリテーション専門委員会は年に3回対面形式で研修会を実施してきました。新型コロナウイルスの流行に伴い、対面形式での研修会開催が困難となり昨年度よりオンラインでの研修会を実施しています。令和4年度第1回研修会では、「LIFEにおけるフィードバックと効果的な活用法」、「見守りセンサーデータの活用とLIFE」をテーマに研修会を開催しました。

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していくことが厚生労働省より推進されています。2021年度介護報酬改定より、科学的に自立支援等の効果が裏付けられた介護を実現するため、科学的分析に必要なデータを新たに収集し、新たなデータベースが構築されました。科学的に効果が裏付けられた自立支援・重症化防止に資する質の高いサービスを提供するために、介護老人保健施設等で「LIFE」でのデータを提出しています。LIFEのフィードバックについて、現段階では暫定的な集計となっており現状ではフィードバックフェイズに移行する事が不十分な状態です。主な理由としては、①現状のLIFE情報では限界があること、②LIFEは定点データであるため、間の記録が拾えないこと、③LIFEで収集した情報はあくまでも材料であること、④LIFEは科学的介護を行う資料・土台であることが理由として挙げられます。施設等で生活をしている利用者は一人一人における状態が複雑であり、LIFEの結果から実際のケアに反映することが現状は難しい状態です。しかし、今後しっかり集計がされれば、「事業所フィードバック」「利用者フィードバック」としてフィードバックを活用することができます。「事業所フィードバック」では、自事業所の時系列変化を把握することができ、全国の事業所との比較が可能となります。「利用者フィードバック」では、利用者自身の時系列変化を把握することができ、利用者の状態像を比較することが可能となります。今後、介護老人保健施設を含めた介護保険領域では、「LIFE」を用いてのデータ提出が求められると思います。地域包括ケアシステムの構築に向けて、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、リハ専門職だけではなく多職種協働にてPDCAサイクルを運用して、より質の高いケアを行っていくことが必要であると感じました。

2021年度介護報酬改定より、介護人材確保・介護現場の革新という項目内に見守り機器の導入や会議や多職種連携におけるICTの活用等の記載があります。施設等で生活をしている利用者の状態は多種多様であり、利用者の状態を観察する上でセンサーデータを活用して状態を把握することは重要であると考えます。リハ専門職に限らず医療従事者は利用者の「気づき」に気づく必要性があります。データに基づき「気づき」を得ることで利用者の「変化」に気づくことができると思います。利用者に対して多職種協働でケアを行い何故その成果が得られたのか。成果を得たプロセスをデータによって「見える化」をすることで、成果を得るための方法を標準化することが利用者と関わる上で重要であると感じました。

3. これからの介護老人保健施設に期待すること

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に構築が実現される地域包括ケアシステム。住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるように、地域包括ケアシステムの「植木鉢」のように多職種が利用者を中心に支援を行っていくことが、今後も介護老人保健施設に求められることであると私は考えます。今回の研修会では、リハ専門職以外に医師をはじめ看護師や介護福祉士、事務職員と幅広い職種の方々に研修会に参加して頂きました。今後も当委員会の研修会をはじめとする研修会等で多職種が顔の見える関係性を構築していくことを、これからの介護老人保健施設に期待します。

特集

専門家によるレポート

－認知症のなかでもよりケアに注意を要するレビー小体型認知症について－

安部　秀三

略歴
1992年筑波大学を卒業、同大学附属病院で精神科研修を行い、その後県内の精神科病院に研修ののち、1998年医療法人有朋会栗田病院に勤務。2014年より同院の院長兼認知症疾患医療センター長として現在に至る。この間に医学博士、精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医などを取得した。2016年より那珂医師会、2018年より茨城県医師会、2020年より茨城県精神科病院協会で役員を務める。

1. 認知症の方の増加とともに認知症施策

2012年（平成24年）に厚生労働省の研究班が疫学調査をした数字では、認知症の有病者数は462万人で65歳以上の高齢者のうち15.0％が認知症にあることが報告されました。その後の推計では、2025年（令和7年）で約700万人になるとされます。このような背景から、国は2015年（平成27年）に新オレンジプランを策定し、その基本的考え方「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。」をもとに様々な施策を実施してきました。医療関係者では病院や施設で勤務する職員に対して認知症の対応力向上の研修の実施や地域啓発のリーダーとなる人材を養成しました。

2019年（令和元年）には認知症施策推進大綱が関係閣僚会議で決定しました。このなかでは「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら『共生』と『予防』を車の両輪として施策を推進」としています。

2. 認知症の原因はさまざま

認知症はあくまでも、認知機能が低下したために生活へ支障を来すような病態のことを言い、その原因となる病気は様々です。その中でよく知られているものが、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症などいわゆる４大認知症です。頻度は少ないですが他に数多くの原因疾患も知られています。今後さらに研究がすすむと原因疾患のより詳しい頻度が明らかになると思います。このなかで認知症の過半数はアルツハイマー型認知症であり、典型的には物忘れなど記憶障害から緩徐に進行していくタイプです。レビー小体型認知症は頻度としては10％前後ですが、多彩な身体・精神神経症状を伴うことから対応に苦慮することも多いので以下このタイプの認知症について説明いたします。

3. レビー小体型認知症について

そもそも名前のレビー小体型認知症とは、大脳皮質のなかに「レビー小体」という物質が認められ、それが脳内に広がることによって様々な症状、認知症へと症状が進展していきます。この「レビー小体」にはαシヌクレインという蛋白がたまっていることが知られています。この「レビー小体」が主に脳幹部に現れた場合にパーキンソン病という病態となることは従来から知られいますが、1976年にこの「レビー小体」が大脳皮質に沈着し進行性の脳疾患に陥ることを日本人の研究者である、小坂憲司先生（横浜市立大学名誉教授）が世界に先駆けて初めて報告しました。

レビー小体型認知症の症状は認知機能の低下に加え多彩な精神神経症状が出現することが知られています。国際的に認められている診断基準に従って説明します。

認知機能の変動：頭がはっきりして物事の理解、判断がスムーズな状態と、そうでないボーとして反応が鈍い時間帯があります。これが日によって異なったり、1日のなかでも時間帯により差が激しい様子があります。

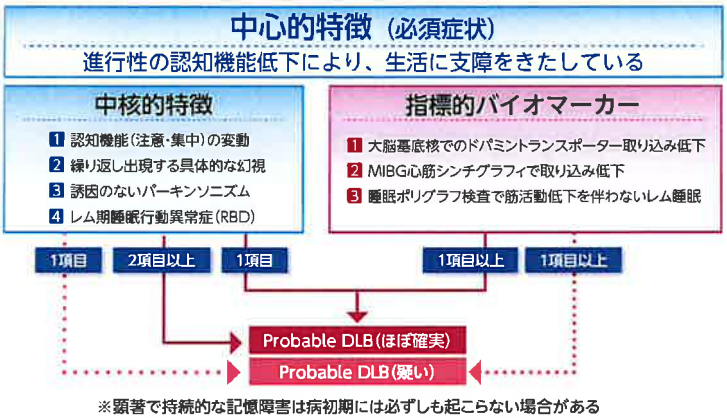
幻視：実際には見えないはずのものが本人には見えるという体験です。「子供が部屋のなかに座っている」など人や小動物などが見えるというお話が多いようです。本人にはありありと見えている場合もあり、見えている人に対して

声かける様子や飲み物を出したりすることもあります。また、ものを見間違えることも多く、これは錯視といいます。

レム期睡眠行動異常症：睡眠中のレム睡眠期に大声で寝言を言ったり、横で寝ている人を叩くなどの大きな体の動きがみられます。レム期に通常弛緩している筋が緊張してしまうために起こるとされます。最近の研究では、発病する何年も前からこの症状は先行して出現していることがあり、この症状は病気の前駆症状として重要な症状です。

パーキンソン症状：手足のこわばりや体の動きにくさ、手の震え、歩行時の転倒しやすさなど運動機能障害がみられます。これらの症状はパーキンソン病の症状と同様なためにパーキンソン病と理解して、その他の症状が見落とされてしまっている時もあります。転倒しやすさやさらには飲み込みづらさもあるので注意すべき症状です。

図のように現在の診断基準では上記の4つが中核的特徴とされる症状です。もともと進行性の認知機能低下がある方に、上記4つのうち2つあればレビー小体型認知症の診断はほぼ確実（Probable DLB）、1つあれば疑い（Possible DLB）とされます。



Mckeilh.I.G et al,:Neurology,89 (2017)

その他の症状：レビー小体型認知症は体と心に様々な症状が出現します。自律神経症状として便秘、起立性低血圧、頻尿、寝汗、嗅覚障害、抑うつ、不安、妄想などの精神症状があります。

レビー小体型認知症の診断（図）には、上記の様々な症状を捉えるということとのほかに、画像検査があります。脳ドパミントランスポーターシンチグラフィー、脳血流シンチグラフィー、MIBG心筋シンチグラフィーという核医学検査を行い、より診断の精度を上げることを行います。

治療ケアとしては、現状の生活状況でケアの必要度を評価し、介護保険等によるケア導入あるいは充足を検討します。薬物治療はドネペジルという薬剤を用いることが推奨されており、認知機能障害の進行を遅らせる効果のほか、注意力や覚醒の変動を少なくする、さらに幻覚症状などBPSDへの効果も期待できます。薬物治療については主治医によく尋ねてください。上記の薬以外でもアルツハイマー型認知症で効果が認められた薬剤、漢方薬、抗パーキンソン薬、精神症状に向精神薬の使用を本人・家族と相談し試すことがあります。

4. アルツハイマー型認知症との違い

最も多い認知症のタイプはアルツハイマー型認知症なので、そのタイプと比べての特徴は、認知機能の低下以外に多彩な身体・精神症状が出ることが特徴です。とりわけ病気の初期から幻視が出現しやすいことが言えます。また、アルツハイマー型認知症が病初期から記憶障害が目立つのに対して、記憶障害は軽度であり、注意、遂行機能、視空間認知などがより目立つことが多いです。

5. レビー小体型認知症の方のケアについて

幻視の訴えについては、介護者は見えないわけなので即座に修正したいと感じますが、本人が見えていることは事実ですので、即座に否定しないようにしましょう。また、視空間認知機能の障害、パーキンソン症状、起立性低血圧など転倒につながりやすいので注意しましょう。向精神薬、いわゆる安定剤などはレビー小体型認知症では副作用が出やすいので処方開始時や増量時にはより注意してケアしてください。

委員長就任あいさつ

看護介護専門委員会
委員長　角田　浩二

昨年度に引き続き看護・介護専門委員会の委員長を務めさせて頂く、つくばリハビリテーションセンターの角田です。至らない点も多々あると思いますが、委員会の皆様に支えて頂きながら精一杯務めさせて頂きます。新型コロナウイルスの影響により昨年度からZOOMを使用したオンライン研修を開催しております。ご参加いただきありがとうございます。事前連絡がやや遅くなった事などもあり、ご迷惑をお掛けしました。今年度はその反省を活かしながら年間計画に沿って開催する予定です。７月に新型コロナウイルス感染症対策講座（参加者92名）、９月～11月にかけて全６回の介護福祉士国家試験対策講座、11月頃に各施設の転倒・転落防止対策の研修を予定しております。すべてオンライン研修になります。お忙しいとは思いますが、ご参加して頂き日々の業務に活かしていただければと思います。

今後とも当委員会の運営にご理解・ご協力のほどよろしくお願いします。

支援相談員専門委員会
委員長　二川　洋子

今年度より、支援相談員専門委員会の委員長を務めさせていただきます、サンライズ湊の二川洋子です。不慣れな事もありご迷惑をかけることがあると思いますが、皆様のご協力を頂きながら精一杯務めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

当委員会では６月17日に第一回研修として、２年ぶりにZOOMを用いたオンラインにてグループワークを開催することができました。

今回、新型コロナウイルスの影響で直接会っての研修はできませんでしたが、たくさんの方に参加して頂きました。相談員として日頃の疑問や悩みなどをテーマ別にグループで情報交換を行いました。また、各施設の取り組みなどを発表して頂き、有意義な時間になったのではないかと思います。

第二回研修は９月に外部講師をお招きして行う予定です。多くの方のご参加をお待ちしておりますので、よろしくお願いいたします。

栄養専門委員会
委員長　岡野　友衣

今年度より、栄養専門委員会の委員長を務めさせていただきます、すみれ管理栄養士の岡野友衣です。不慣れではありますが、この機会に多くの事を学びながら精一杯努めて参ります。

新型コロナウイルス感染症により会場での実施が困難な中、令和３年度の研修会は初めてリモートで開催しました。公益社団法人茨城県栄養士会様と共催で、栄養ケアマネジメントの概要と一連の流れ、令和３年度介護報酬改定について学びました。終了後にはたくさんの質疑、分かりやすい回答があり、充実した研修となりました。

令和４年６月の研修は日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021、低栄養の栄養管理について行い、丁寧な説明により知識を深める良い機会となりました。

11～12月頃にも研修会を予定しておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

今年度も専門職としての知識や情報を身に付けられるよう、取り組んで参りますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

事務専門委員会
委員長　小松﨑 和貴

今年度、事務専門委員会の委員長を務めさせていただきます、介護老人保健施設かすみがうらの小松﨑です。至らぬ点も、多々あるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。

事務専門委員会では６月に令和４年度第一回の研修を行いました。内容は接遇、チームビルディング、ということで、社会人として基本的な事からチームとして取り組むことの大切さを学びました。参加申込も50名弱と普段の研修に比べ、より多くの方からのお申し込みをいただけて、ひとまず安堵しております。

講義の中で短所長所の再認識、という言葉がありました。今の職場で働かせて頂き、早２年弱、駐車場に飛来したゴルフボールの対応に始まり、蜂の退治、車椅子の修理、老健大会の運営、等と本当に多種多様な業務に携わらせて頂いていています。今一度、今までのことを思い出し短所長所を確認しなければ、と思う本日（最高気温36度）です。皆様、お体に気をつけてお過ごし下さい。

リハビリテーション専門委員会
委員長　原島　亮治

本年度より、リハビリテーション専門委員会の委員長を務めさせて頂きます、サンライズ湊理学療法士の原島亮治です。至らない点も多々あるかと思いますが、前委員長の意志を引き継ぎ、精一杯努めて参りたいと思います。

現在の老健は、病院と在宅を繋ぐ中間施設としての役割だけではなく、ターミナルケアや、適切なアウトカム、地域貢献活動なども求められ、対応される皆様の役割も多岐に渡っている事と思います。このような社会の変化に柔軟に対応し、日々の業務にあたる皆様に、研修会を通して少しでも役立つ情報の提供が出来たらと考えております。

昨年度はオンライン研修へ舵を切り、新しい形を構築することが出来た一年でした。

本年度も３回の研修会を予定しております。第１回目として６月に「LIFEにおけるフィードバックと効果的活用法」をテーマにオンライン研修会を開催し、100名を超える方々にご参加頂きました。これには、皆様の関心の高さに驚きと共に非常に嬉しく思っております。

第２回は10月頃、第３回は２月頃を予定しております。可能であればオンライン以外の開催方式も検討したいと思います。続報をお待ち頂き、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

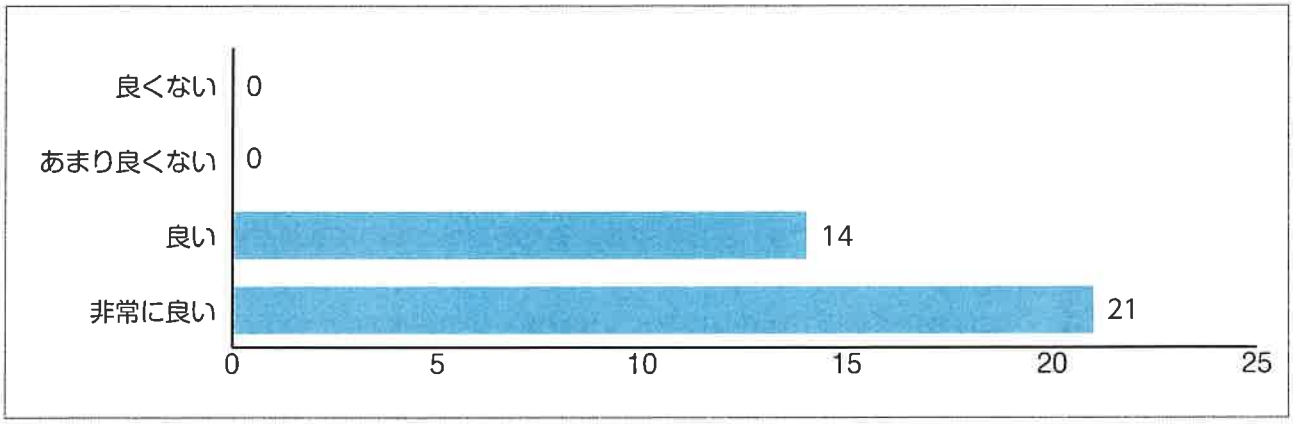
今後も、委員一丸となり皆様の業務に寄与できる研修会の企画・運営を行って参りたいと思います。今後とも当委員会の運営にご理解とご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

企画2

第29回　研究発表会アンケート結果

★特別講演「福祉という【しごと】の未来」についていかがでしたか？

非常に良い　21件　　良い　14件　　あまり良くない　0件　　良くない　0件



・価値の提供と言う感覚が新鮮だった。経営寄り目線でのお話で興味深い内容だった。

・マーケティング戦略のお話や深いところまでの考え方等改めて学ばせていただけてとても貴重な時間だった。

・新しい取り組みができる施設に出来るよう邁進していきたい。

・明確な目標設定・解決方法、そこまでのプロセスを考えることが大切だと感じた。

・いろいろな視点から家族、利用者、職員に目を向けることが大切だと改めて感じた。モニタリングを行い、その人が何を必要としているのか考え、想像し支援する。難しく考えてしまいがちだが、その都度立ち止まり振り返りながら、より良い支援に繋げたい。

・同じ福祉業界でも、対象となる利用者が異なり、サービス提供体制に違いがあると感じた。サービスを受ける側と提供する側のミスマッチで、合わないのであれば打ち切りという手段もあるとの事でしたが、地域を支える立場である老健では、それが出来ないからこそ解決策を模索してジレンマを抱えているのではないかと感じた。

・職員も大切にしてくれる企業であることが伝わり、素直に羨ましいと思った。

・自分や他職員が取り組んでいることは、利用者さんとご家族の満足感に繋がっているのかなと、考えさせられました。

・仕事に対してのサービスの姿勢を学ぶことが出来ました。どのようにしていけば利用者やご家族様が必要とする支援を出来るかを学べました。

・普段伺えるお話では無かった為新鮮でした。

・自分の中で腑に落ちる講演内容でもう一度聴きたいと同時に、当苑でも実行したいと思った。

・介護サービスを提供される側の価値、働いて得られる価値と非常に考えさせられる内容だった。相手の心理を読み解き、価値をはっきりさせるということを当施設でも取り入れていきたい。

・毎日の仕事で目的を見失いがちですが、目的を持って仕事をすることの実感を持つことで、仕事のやりがいを感じ、疲弊のコントロールも出来ると思った。

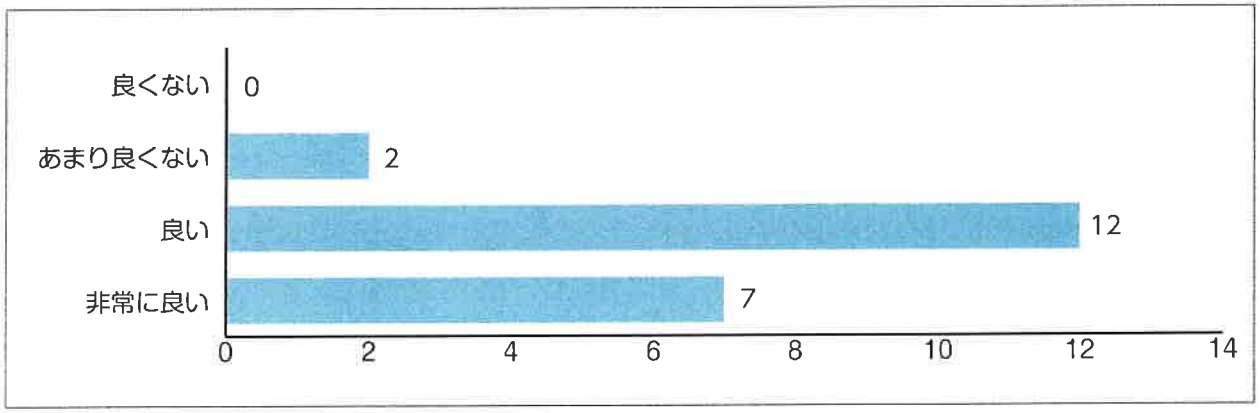
・仕事の考え方が変わった。この業界はクリエイティブな仕事であり、サイクルを回すことでいろいろな事ができ、ニーズにどれだけ添えるかなど、まだまだ可能性があると感じた。

・利用者さんに対し、お世話をするでなく、人生の応援をさせて頂くという言葉に感動した。

・コロナ禍で研修や講習が制限されている事が多い中、参加出来て良かった。ディスカッションし他施設の意見も確認出来て良かった。

★セミナー研修①「笑顔溢れる対話術」についていかがでしたか？

非常に良い　7件　　良い　12件　あまり良くない　2件　良くない　0件



・対話の大切さ、対話から始まる成功例を見ることで、対話力の大切さを学ぶことが出来た。

・これまで職員から意見を引き出すためにはどうしたらいいのだろうか？と迷う事もあったが、まずは相手をフラットな目線で見て受け入れる事、安心して意見を出せる環境作りが大切だという事が改めてわかった。

・対話術を用いて介護の魅力を発信していきたい。

・参加する皆さんが同じような熱量をもって、自分とは違う意見を受け入れるという前提で意見交換をすることが大事だと感じた。なかなかその前提がないままの話し合いが多いので、頭に入れて話しをしたいと思う。

・対話についての必要性を実感することができた。どういう風にしていけば良い対話につなげていくことができるのか学ばせて頂いたので、今後活用していきたいと思う。

・まずは、自分の持っている情報や内心を開示することから始めようと思った。

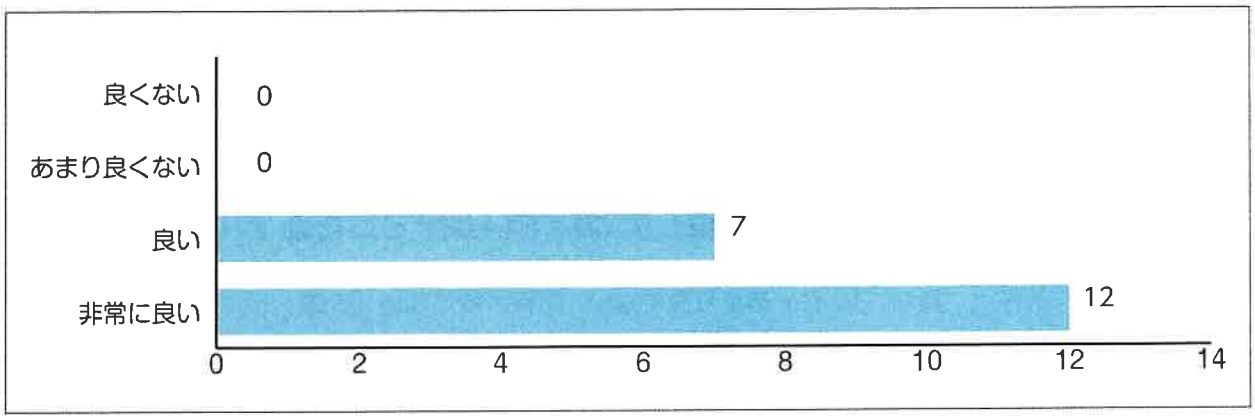
・情報発信の大切さを学んだ。

・対話について意識を改めることができた。

・会議ではなく対話、話し合いの大切さと重要性を感じた。また、対話の為の環境作りをする事が他施設様でも課題になっており、環境作りの為の動きがまず必要であると考えることができた。

★セミナー研修②「地域と一緒に活き活き愉快な街づくり」についていかがでしたか？

非常に良い　12件　良い　7件　あまり良くない　0件　良くない　0件



・介護老人保健施設の在り方や、行っている例等を交えた講話だったので聞きやすく、ためになった。園芸の件に関しては。とても興味深かった。

・改めて老健としての役割を理解する事が大切なのだと思った。在宅復帰に向けての取り組み、課題の把握、他職種の連携の大切さが分かった。家に帰りたいという利用者様の思いを大切にしたい。

・地域での役割やつながりについて具体的に理解ができた。利用者にとって今後につながっていくケアをしていきたい。

・これからの役割が、とてもイメージ出来た。素敵な取り組みに感銘を受け、そんな地域で暮らしたいと感じた。

・事前配布資料を頂けると良かった。

・内容にあった老健や取り組みがとても理想的であり、目指していかなければならないことであると感じた。しかし、それをどうやって地域行政や民間企業、地域住民達と連携を図ったか、どのように創り出したかを具体的に学びたいと思った。

・老健にはいろいろな可能性があると思いながら仕事をしてきた。改めてもっと視野を拡げていきたいと感じた。

・実現は難しそうだが、とても興味深い内容だった。農作業や豆腐作り、地域が一体となって取り組んでいる理想像が現実にあるというところに驚いた。

・今回のセミナーに参加し、多職種が連携することの大切さを改めて学んだ。当施設も地域に根付いた老健を目指すため参考にしたい。

・利用者の中には、どうしても帰れない人も何人も復帰出来ない人の介護も大切。本人の意向が大切な事。改めて見直していきたいと思いました。

・内容は決して簡単ではなかったが、施設が今後生き残る為には、地域にあった施設づくりの必要性が重要だと感じた。

・地域密着型の住民参画による事業企画を推進され、地域愛とダイヤモンドシティ化には、すごい熱量を感じました。地域においても、施設においても、「強い想い」が一番大切なことを学んだ。

お知らせ

お知らせ1　★第30回老健大会開催案内および研究発表演題募集★

令和４年度　第30回老健大会では3年ぶりに研究発表演題の募集を行います!!　開催日は令和５年２月16日（木）です。会場参加・Web参加を併用したハイブリット方式での開催であり、演題発表の方は、パワーポイントで作成していただき、会場参加もしくはリモート参加で行う予定です。感染症予防には最大の注意を払い、配慮しながら準備を進めてまいります。

会場参加の方もWeb参加の方もご満足いただける内容を考えておりますので、多くの方のご参加を心よりお待ちしております！！　詳細につきましては、開催案内をご参照ください。

また、今回は福祉イベントとしまして、城　南海さんによるコンサート♪も行われます。コロナ禍で日々頑張っている職員の皆さん、優しく美しい歌声に包まれながら、癒しの時間をお過ごしください。

お知らせ2　★永年勤続者表彰に25年表彰および35年表彰が新設されました★

これまで永年勤続者表彰の対象が10年以上のみでしたが、新たに勤務年数25年および35年の枠が新設されることになりました。既に10年以上の枠で永年勤続者表彰を授与されている方も、25年もしくは35年を経過し施設から推薦がございましたら別枠で授与いただけることになります。申請については例年通り９月中を予定しておりますので、あらためてご案内させていただきます。

お知らせ3-1　★各種専門委員会主催　研修会開催案内★

令和４年度各種専門委員会主催の研修会を下記の予定で開催いたします。各会員施設職員の皆様、ご参加お待ちしております！！

専門委員会名	実施年月日	事業（研修）内容
看護・介護 （第１回）実施済	令和4年7月6日	○リモート研修 講師：日本赤十字社 水戸赤十字病院 認定看護師　白石 真由美 氏 内容：新型コロナ感染発生時を想定した感染区域内での看護介護オペレーション方法・対応事例
看護・介護 （第２回） （開催案内送付済み	令和4年9月16日 ～11月25日（計6回）	○リモート研修 講師：矢花　光（リリーこども＆スポーツ専門学校教諭） 内容：介護福祉士国家試験対策講座　全６回シリーズ 目的：有資格者増加により業態（老健）の優位性を確保

（次ページへ続きます）

お知らせ 3-2　★各種専門委員会主催　研修会開催案内★ （前ページからの続き）

専門委員会名	実施年月日	事業（研修）内容
支援相談員 （第１回）実施済み	令和4年6月17日	○リモート研修 内容：グループワーク LIFE・加算に対する取組み、コロナ禍における施設での取り組み等
支援相談員 （第２回）	令和4年9月中旬	○リモート研修 内容：リスクマネージメント事例研究
栄養 （第１回）実施済み	令和4年6月29日	○リモート研修【後援：公益社団法人茨城県栄養士会】 講師：株式会社　明治 マーケティングソリューション部 マーケティング学術グループ 深川 史麻 氏　・　岡本 寛子 氏 内容：日本摂食嚥下リハビリテーション学会 ・嚥下について　・低栄養の栄養管理
栄養 （第２回）	令和4年11月 または12月 （予定）	○選定中
事務 （第１回）実施済み	令和4年6月24日	○リモート研修 講師：一般社団法人　Ｓｍｉｌｅ　Ｐｌｕｓ 代表理事　藤森　結花　氏 内容：接遇研修（全職種向け） ・接遇マナーについて ・チームビルディングについて（グループワーク） ・コミュニケーションについて
事務 （第２回）	令和4年度下期 （予定）	○選定中
リハビリテーション （第１回）実施済み	令和4年6月17日	○リモート研修 講師：①エヌ・デーソフトウェア株式会社ソリューション事業部 石川　真大　先生 ②リコージャパン株式会社　ICT 事業本部 小林　ゆ紀　先生 内容：「LIFE におけるフィードバックと効果的活用法」
リハビリテーション （第２回）	令和4年10月11日 （予定）	○リモート研修 講師：つくば国際大学　小林　聖美　先生 内容：家屋調査でリハ職が持つべき視点（仮）
リハビリテーション （第３回）	令和5年3月 （予定）	○選定中
令和４年度 専門委員会 合同会議	令和5年2月下旬～ 3月上旬 （予定）	○リモート開催（予定） 内容：①令和３年度事業実績のまとめ ②令和４年度事業計画策定 ③その他

水戸事務局だより

水戸事務局 おすすめスポット

茨城県には魅力の詰まったスポットがたくさんあります。
今回は水戸事務局周辺の
『茨城ってやっぱりいい!』って
感じるお店を紹介します。
お気に入りのアイテムやパンに
出会えたら新たな茨城発見ですね!!

水戸事務局

水戸市千波町、セキショウ・ウェルビーイング福祉会館（旧茨城県総合福祉会館）の3Fに平成23年8月より茨城県介護老人保健施設協会の新事務局として始動して、ちょうど11年を迎えました。平成園事務局を経て、令和3年4月より、かすみがうら事務局と共に、主に各専門委員会の研修案内、機関紙発行、研究発表会開催などに関わる業務を行っています。

〒310-0851
水戸市千波町1918 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館3F
Tel:029-291-5376　Fax:029-291-6057
Mail：i-roken@intio.or.jp

Map

福祉の店　ハーネス

手作りのぬくもりが毎日を彩る。

こちらの梅干し。肉厚で焼酎にもおすすめです！

購入品（^^ゞ

こちらのお店では、茨城県内の障害者施設や作業所で制作している自主製品を販売しています。
ひとつひとつ心を込めてつくった商品が豊富にそろっています。すべて素材の持ち味を生かした手づくりの温かさが伝わる商品ばかり。お店の方にお話を伺った際も、可愛くて思わず買ってしまいました（^^♪。撮影にも親切にご協力頂き、ありがとうございました。
野菜や果物も人気で、ブルーベリーやミニトマトなどは、店頭に並ぶとすぐ完売なんてことも。梅干しは何度もリピートしている我が家の常備品。焼酎お湯割りのお供です（^^）。また、木曜日は手づくりパンの日となっていて、クッキーやおかきもサクサクでやさしい味。
その他にも、全そばがら手作り枕や地球にやさしい石鹸、温かみのある陶芸品や、かわいいエプロンやバックなどの手芸品がたくさん並んでいます。
まだまだご紹介しきれない手づくり品がたくさんありますので、お近くへお越しの際は、ぜひのぞいてみてください。

〒310-0851
水戸市千波町 1918 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館 1F　TEL029-244-7461
営業時間　平日 9:30～16:30
【定休日】土・日曜日 祝日
HP http://www.harness.jp

La Maison du pain KURIHARA

茨城の魅力が詰まったからだにやさしいパン屋さん。

那珂市とひたちなか市に店舗を構える「パン工房ぐるぐる」のオーナー、栗原淳平さんが、この度笠原に、"世界に誇れる茨城"を目指してオープンさせたお店に早速行ってみました。栗原さんは、ドイツ開催のパンの世界大会「iba(イバ)カップ」の日本代表選手に茨城で初めて選ばれたパン職人。
店内に入るとショーケースに焼き立てのパンがずらり。店員さんも笑顔で迎えてくれます。どのパンも魅力的で、お話を伺うことも忘れ、どのパンにしようかなーとしばしフリーズ…。なかなか決められず、やっと選んでレジへ向かい、抹茶ラテをオーダーして、イートイン。もっちりしていておいしい！感動です。(← 語彙力なさすぎ(;∀;))。
幸せな時間を満喫し、「記事を掲載したいのですが、責任者の方はいらっしゃいますか?」と近くにいた店員の方に声をかけると、「はい、名刺をお渡ししますね。」と、笑顔で言ってくださったその方が、まさかの栗原さんでした！大変失礼いたしました。しどろもどろになりながら記事掲載のお話をして、優しい笑顔でご対応いただきました。
そんな栗原さんが作るこだわりいっぱいのパンを、ぜひ召し上がってみてください。

〒310-0852
水戸市笠原町 1373-1　TEL029-291-7775
営業時間　平日　10:00～19:00
　　土日祝　9:00～19:00
【定休日】水曜日
HP https://www.e-kurihara.net

コロナ禍での対応

介護老人保健施設
ライブリーライフ「那珂」
理学療法士　佐藤　康嵩

ライブリーライフ「那珂」は、小豆畑病院を母体とする平成８年に開設された介護老人保健施設です。当施設の特徴として、病院併設型というのが一番の特徴です。入所者の急変時に即時的に病院と同等の対応、処置がとれることで入所者ご家族様も安心してご利用いただけると思います。

私たちリハビリテーション職員は、理学療法士３名、作業療法士３名、言語聴覚士１名で入所・短期入所・通所リハビリテーションを兼務しております。多職種連携を図りながら勤務しております。

2020年からの新型コロナウィルス感染症により世界が大きく変わってしまいました。医療や介護の現場においても、常に感染対策の徹底・面会の制限により、ご家族と会えない日々が長く続いていると思われます。当施設でもWebを使った面会を行っていましたが、画面越しでの面会に慣れていないご高齢者、難聴や視覚に障害がある方へのWebでの対応に苦悩する日々が続いています。

対面面会ができない状況でリハビリの進捗をご家族様に説明するにあたり、口頭だけでは伝わらない時もあります。写真や動画を撮りリハビリの説明することで、少しでもご家族様にイメージをもってもらえるように工夫しています。

ここ最近では、感染状況を考慮しながら対面での面会を再開しています。

コロナ禍でも、ライブリーライフ「那珂」で過ごせて良かったと思っていただけるよう、日々仕事に励んでいきたいと思います。

ICT化への取り組み

介護老人保健施設
セントラルゆうあい
海老原　大輝

当施設は、入所定員100名、通所リハビリテーション定員60名の施設です。在宅強化型を算定しており、リハビリテーション専門職はPT９名、OT５名、ST３名を配置しています。入所、通所リハビリテーションをそれぞれ専従配置として、入所、通所リハビリテーション、それぞれリハビリを特化し利用者様、ご家族様の要望や身体機能、QOLの向上に一層強化できるよう体制を整えています。

昨年度より通所リハビリテーションでは、株式会社Moffが開発したタブレットを使用した機能訓練プログラム、「モフトレ」を実施しリハビリテーション効果を見える化することを試みています。モフトレを利用し、リハビリ専門職が監修した運動やレクリエーションを介護スタッフと一緒に実施し、ご利用者の皆様からは、「面白いね」、「またやってみたい」等の声が聞かれ、楽しく取り組まれています。その他にも「モフチェック」というアプリを使用し、身体機能評価を実施し、その場で経時的変化をタブレット上でフィードバックすることで変化を分かりやすく伝えることができ、運動意欲向上へとつながるツールとして継続して実施しています。今後も、利用者様、ご家族様へ寄り添ったサービス提供ができるよう多職種連携し支援していきたいと思います。

特別寄稿

テノール歌手　秋川雅史さんからのメッセージ

秋川（あきかわ）　雅史（まさふみ）さん

プロフィール
愛媛県西条市生まれ
国立音楽大学・同大学院終了後、４年間イタリアのパルマでデリオ・ポレンギ氏に師事
1998年、カンツォーネコンクール第１位、日本クラシック音楽コンクール最高位をそれぞれ受賞。
2006年 第57回NHK紅白歌合戦に初出場。
2007年1月「千の風になって」でオリコンシングルチャート1位を獲得、130万枚もの売り上げとなる。
現在、最も実力、人気を供えたテノール歌手として活躍している

〈秋川雅史コンサート～日本の未来を担う若手声楽家との共演～〉
2022年9月7日（水）東京サントリーホール大ホール
開場17:00／開演18:00
（問）03-5720-9999（平日12:00～18:00）

私は14歳の時から父の指導のもと声楽の勉強を始めました。

その後さらに専門的な勉強をするべく音楽大学に進み、上京してきました。

そこから20代いっぱいまで、私と同じテノールの中村健先生に声楽を習ってきました。

そして私は歌手として自立をし、現在私は健先生に習い始めた時の先生の年齢と同じ年齢になりました。現在先生は90歳を迎え、難病と戦いながらも施設で生活をされています。

そんな先生が、昨年人生最後のレッスンがしたいとおっしゃり、医師やスタッフの協力のもと、先生の体力も考え30分間限定の公開レッスンが行われました。そしてその4人の門下生の中に私を選んでくださり、久しぶりの先生のレッスンに緊張感を持って臨みました。私を育ててくれた先生の愛情を感じると共に、まだまだ至らない自分の未熟さも感じました。そしてそこで思った事は、自分が90歳を迎えた時に、またもし自分が病に侵されてしまった時に、歌に対して今と同じ情熱を持ち続けていられるであろうか。これからの自分の将来に対して深く考えさせられるレッスンとなりました。そして現在は、コロナの影響で歌う場が激減してしまった若手声楽家たちに歌う場を提供したいという気持ちから、若手声楽家と共演するコンサートを行っております。先生の様に、少しでも若手の声楽家たちに何かを残せたらと願っております。

みんなの広場

ひだまり倶楽部　（北茨城市）

●ロールアートで超大作

通所リハビリテーションの利用者様が複数名で作業を分担して、東洲斎写楽の「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」をロールアートで作成しました。色画用紙を指定の寸法に裁断する方、裁断された色画用紙をロール状に丸める方、複数に分けられた浮世絵の線画にロールを立てて貼り付ける方に分かれて分担作業をし、最後にすべてのパーツを繋ぎ合わせ900㎜×700㎜の見応えのある作品が完成しました。

作品の写真を拡大してみるとロールの太さや幅がキレイに揃っているので、難しい絵柄でもこれだけの見栄えになりました。画用紙の裁断班、ロール巻班の仕事が光る作品です。

すばる　（結城市）

●茶釜の湯パラリンピック開催

通所リハビリセンター茶釜の湯は、温泉プールを利用したリハビリを実施している施設です。年に１回開催される「茶釜の湯パラリンピック」では、紅白に分かれて皆さん童心に戻り必死に勝負していました。それを応援する見守りのスタッフの声にも力が入ります。利用者様の笑顔は、いつもより増してキラキラと輝いていました。

はぁもにか　（水戸市）

●てるてる坊主作り

デイケアでは季節毎に作業活動を行っています。6月はてるてる坊主を作りました。

ビニールを切り、花紙の色を選び、テッシュを丸めて頭を作り、目をシールを使い、口を書く、といった作業をご利用者様が行いました。色や形に個性あふれるてるてる坊主が完成しました。梅雨空の中、はぁもにかデイルーム天井は鮮やかに彩られています。

プレミエール元気館　（つくば市）

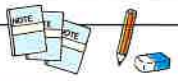
●紫陽花と向日葵

通所リハビリの利用者様が協力して梅雨の【紫陽花】と真夏の【向日葵】をイメージして作りました。

男性は絵の具で色を、女性は手先を使い折り紙を折り、利用者様と職員で配置を考え出来上がった時には「素敵～」と歓声が沸き上がりました。

館内の廊下に掲示し、入所の利用者様と一緒に季節を感じられる作品が完成しました。

― 編 集 後 記 ―



○今号の表紙では、牛久界隈の初秋を飾る風景として、①日本初の本格的ワイン醸造所「牛久シャトー」、②河童伝説とうな丼発祥の地といわれる「牛久沼」、③青銅製立像で世界一の高さを誇る「牛久大仏」を掲載しています。

○今記事のトピックでは、俳優　市毛良枝さん、テノール歌手　秋川雅史さんから本誌に心あたたまる寄稿を頂戴しています。

発行所／一般社団法人　茨城県介護老人保健施設協会
発行人／老健かすみがうら　大　場　正　二

一般社団法人
茨城県介護老人保健施設協会
ホームページ

編集人／プロスペクトガーデンひたちなか　森　田　　隆
編　集／鹿野苑　熊　坂　裕　吾
シニア健康センターしおさい　児　島　　強
つくばリハビリテーションセンター　市　原　健　一
平成園　小　柳　賢　時
ウイケア　岩　瀬　　剛